

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社東海ケア		
事業所名	グリーンホームかさほら I		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成27年9月11日	評価結果市町村受理日	平成27年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_l_2015_022_kani=true&ji_gyosvoCd=2171900067-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大広間を利用し台風の時には近くの方が避難されて来られる事もありますが、平成27年5月「災害発生時における福祉避難所」として多治見市と協定しましたので一層利用していただけたと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな料理旅館を改修した事業所である。大広間は、2ユニット・デイサービス利用者が全員でラジオ体操を日課にし1日の始まりとしている。地域住民とのつながりもよく、野菜や、不用品をいただいたり、回覧板で事業所の行事に誘い、夏祭りやボランティアとの交流で共に楽しんでいる。職員と一緒に塗り絵や折り紙をして、脳トレーニングとしている。職員の年齢層も広く、長年勤務者が多く、利用者を中心に考えた理念で支援している。食事づくりは、ユニット毎に異なり、旬の食材で、利用者の生活習慣を生かした好みのメニューにしている。運営推進会議に、市議会議員が現状を知りたいと訪れ、メンバーからも情報や意見が出され協力的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引継ぎ、月1回全体会議において理念の唱和を行っている。	管理者は職員に理念を具体的に話し、利用者が安全・安心に暮らせるように。又、表情をみながら不安を取り除き、笑顔で接するよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が作ってみえる野菜を頂いたり、草刈をしてくださったり、回覧板を持っていったりしている。台風の時など一人で怖いからとホームへ避難して来られる方も有りましたが、H27年2月に「災害発生時における福祉避難所」とし多治見市で協定しましたのでより一層地域の皆様に利用して頂きやすくなるかと思う。	地域住民から、野菜や不用品を頂いたり、近所の方が回覧板を孫と一緒に届けてもらったりしている。神社参拝時に挨拶し、福祉祭りに作品を出して交流している。事業所の行事を回覧板で住民に知らせ、大広間で共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回の傾聴ボランティアの方々との集い。見学したい方はいつでも来られるようにしている。不用になった衣類・タオル等を回覧板にして呼び掛け、持って来て頂いたり、取りに行ったりしている。不用になったビニールひも等を頂き、利用者のリハビリに使用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では地域の役員、市の福祉課包括センター、家族の方々の参加にて状況報告・要望・意見交換をしサービス向上に取り組んでいる。	メンバーの他、市議会議員が現況を知りたいと参加している。事業所の現況報告から、帰宅願望の強い利用者の対応の質問にも答えている。家族からは利用しての感想などを聞きサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の福祉課、包括センターの方も運営推進会議に参加して頂き、実情・情報提供を交えて積極的に取り組んでいる。	担当者とは、書類の提出時や空き状況を知らせ情報交換をしている。利用者ごとに担当者の訪問もあり状況提供している。側溝からあふれた雨水で被害があり対応を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受け、全体会議時に研修報告の元、勉強会を行っている。それでも車椅子で過される方等は自力が無く、滑り落ちられる為、T字ベルトの使用、又ベッド柵の固定する事を家族に話し同意書に署名捺印を頂いている。	利用者の状態から、危険と判断して、拘束時間を短くすることを話し合い、家族の同意を得てT字ベルトを使用している。しかし同意書の内容が具体的になく、拘束時間の短縮で話しあっているが、緊急やむを得ない場合の手続きに従った同意書になっていない。	家族の同意があることで安易に納得せず、拘束をしない手続きを、全職員で再度学習されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受け、ミーティング時全員で話し合う。アザ等のある時はいつ・どの様にして出来たかを追求する(勉強会)。行動・思いをすばやく察知し日々忍耐強く心のケアを行っている。職員同士が見過ごさない様、常に注意をし防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のフォーラム等に参加し学ぶ機会を持っている。現在、後見制度を使ってみえる利用者さんも有り、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学・契約に関する家族の不安・疑問点などの聴き取りを十分に説明し、話し合っ理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画を立てる時、ケアマネ・家族・担当職員等で意見・要望を話し合い反映させている。	訪問時に現状を知らせて意見を聞き、毎月、手紙や電話でも相談や意見を尋ねている。又、家族会を行事に合わせて開催し、現状を知らせながら要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全職員出席にてミーティングに参加、意見交換をしている。また、その時々においても提案・意見を言える様に努力している。	パート職員も含め月1回の会議で、障子を張替えて欲しい、備品の購入をして欲しい、などの意見があり検討している。職員同士、管理者とも云いやすい関係である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は各自の条件が重視されている。個々の努力や実績、やりがい、向上心を持って働けるように給与水準の見直し等も考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に積極的に各研修を受けたり、法人内外の研修を受けることは実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行いたい、出来ていないのが現状です。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手の立場に立って心情を理解し心から笑顔で接し、心の寄り添えるケアをひながら信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと要望等に耳を傾けることはもちろん、家族の協力を得ながら安心して生活の出来る様に信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族にはホームに来て頂いたり、手紙や電話等で状況を共有し、一方通行にならないように協力を求める事により信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に出来る仕事、洗濯物を干す、畳む、草取り等を職員と共に行って関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙であったり、電話であったり又は訪問時にはお茶を飲みながら時間の許す限り会話をし(本人・家族・職員)コミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人と食事に行ったり喫茶店に行かれる方があり支援している。ドライブの時は本人の住み慣れた場所を選んでその場所に立ち寄る。	定期的な、友人と外食に出かけたり、修道院へ毎日曜日に家族・友人と一緒に礼拝に出かけたりしている。家族からの情報を大切に実現できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方は孤立にならない様に間に入り説明し皆と話し合っ作業が出来る様に支援している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方もデイサービスを利用されておりケアマネ、家族との情報交換・相談の支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の希望を常に伺い言葉や表情から何を要望されているかを把握し希望に添える様に努力している。家族への電話であったり外出先の希望等意向に出来る様に努力している。	利用者の傍らに座り、雑談の中からどんなことがしたいか、何処にいきたいかを聞いている。空を仰ぎ「良い天気やな」の声や表情などから、ドライブの意向を察知している。話題を膨らませて、うれしそうな顔から思い出につながる場所の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出張マッサージを継続されている方もあり努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を把握し、強要することなく自由に過せる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を理解し本人、家族、ケアマネ、担当職員で意見交換し、よく話し合って要望を反映させ、より良い介護計画を作成出来る様に努めている。	利用者一人ひとりに担当職員を決めている。1ヶ月の気づきを会議に提出しモニタリングをしている。事前に家族の意向や、医師とは診療日に指示を得て計画に反映している。状態の変化にあわせ見直し、ケアマネが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報に記録し、職員間で朝・夕の申し送りや情報を共有し介護実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診・通院・本人の希望による出張マッサージの継続・条件付えの看取りを取り組んでいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から得た情報により公共施設を利用している。福祉祭などに作品を出したり、見学したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療を受け、緊急時にはいつでも指示を受け動ける様にしている。希望の医院のある方は、家族と共に受診されている方もあり、その方に応じた対応が出来る様に支援している。	かかりつけ医は家族・本人の意向に合わせている。家族同伴の受診時には、日常の様子を家族にメモで知らせ、医師からは電話で指示を受けている。協力医とは、24時間連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で小さな変化など気づきを職員間で情報を共有して適切な処置が出来る様にしている。また、主治医に連絡を入れその都度指示を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は毎日洗濯物を取りに行ったり、見舞ったりし、家族と連絡を取り合い病院との情報交換に努め、早期退院出来る様に話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、理解を得ている。看取りも2名有り今後も家族との話し合いで、条件付であります支援に取り組んで参ります。	入居時に看取りはしないと説明している。家族は特養の申し込みをしている。しかし、家族と疎遠の方や遠方の甥や姪の方には、本人の重度化した場合、電話で相談や説明をしながら、医師の指示を受けて看取りをしている。看護師は不在が多く、職員間で方針や情報の共有が出来ていない。	事業所の方針・指針を明記し、家族にも同意を得ることが望まれる。又、看護師・職員とも重度化や終末期に向けた共有の支援のあり方の学習が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が定期的に消防訓練・救急救命講習を受講し実践出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練を行い地域と協定書を作成し協力を得、又地域の方の一時的避難所としても利用出来る様にしている。多治見市福祉避難所ともなっている。	夜間想定も含め年2回避難訓練をしている。訓練後の反省として滑り台・階段の避難方法を検討している。地域住民の協力も得られている。大雨時の河川・道路冠水の避難先として社会福祉協議会と協定を結んでいる。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に気をつけ心がけてはいるものの、時には反省する様なこともあり、職員間で話し合いながら気をつけて対応するようにしている。	一人ひとりの人格を尊重し、本人の意志を活かし歩行も制限せず見守りをしている。トイレへの声かけは小声で話しかけるなどプライバシーを損ねないようにしている。本人の希望で「○○ちゃん」と呼ぶ方もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の体操・レクリエーション・入浴等、自己決定で本人の意思にそって行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時ゆっくりしたい方、早く就寝したい方、テレビを観たい方、ぬり絵をしたい方等それぞれの希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決める事が出来る方は好きな服装でアクサアリー等自分で選ばれている。自分で決められない方は職員が季節に合った服装を用意する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材・彩り等を考え、好みも取り入れた献立をしている。利用者さんにはテーブルを拭き、食材によってはスジを取って頂いたり食事の後片付け等出来ることを一緒にやっている。	ユニット毎に旬の食材を買い物し、利用者の好みを聞き、メニューが重ならないようにしている。弁当箱・大皿盛にして目で楽しむ工夫をしている。誕生日には本人の希望で外食もある。ちまき餅・柏餅も一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食材を食べやすく調理したり、量を考慮している。また水分量は声掛して摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の体操に嚥下体操も取り組み一人ひとりの口腔ケア介助を行っている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、それぞれに合った声掛けでパットの使用量を減らしたり、自主性を伸ばしている。夜間も巡回し安眠を妨げない様にトイレ誘導をしている。	全員、トイレでの排泄を目指している。一人ひとりの状態を、日報や服薬(座薬)で確認し声かけしている。夜間のみパットの方もいるが、睡眠状況を見て声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫はもちろん、水分補給、牛乳、運動等を行っているが、どうしても薬を必要とされる方には、主治医に相談の上、その方に合う薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日・入りたくない時等本人の希望・タイミングに合わせて入浴支援をしている。入浴剤を入れて温泉気分を楽しんで頂けるようにしている。	入浴時間が一番リラックスできる時間なので、利用者とのコミュニケーションの場としている。話をしたり、歌をうたったり、急かせず、ゆったりしながら楽しんでいる。嫌がられても、時間や職員を変えて声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明をつけたまま眠る人、照明をつけ眠るまで本を読んだりする人、塗り絵をしたりしている人、ラジオを聴きながら眠る人、それぞれの意思を尊重して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬を理解し症状・服薬の変化等は申し送りノートに書き、全職員が把握し誤服用のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には個々の担当者で外出し外食を楽しんだり、ケーキで祝ったり、プレゼントがあったりと喜んで頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・紅葉と四季折々に景色などを見に出掛け、また地域の催し物にも出掛けられるように支援している。	思いを聞いて、買い物や公園に出かけたり、天候に合わせて季節の行楽に出かけている。チラシなどで情報を得て地域行事に参加できるよう支援している。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少ない金額を自分で管理してみえる方も有るが、殆どの方が家族の管理の元に有り、必要に応じて家族の方と話し合い協力をして頂き使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に希望とおりにいつでも電話ができる様支援している。年賀状は皆さんに書いて頂き送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や作品を作り、掲示・展示している。広い広間では自由に過ぎて頂いており、時には他のユニットへ遊びに出掛けたりされることもある。光や温度は常に皆さんの体調に合わせ、心地よく過ぎて頂ける様努めています。	広い居間では2ユニット全員で朝のラジオ体操を日課としている。舞台上でカラオケを楽しんでいる。居間も広く日差しがはいり明るく、ゆったりした長椅子が一人ひとりの居場所となっている。廊下の手すりは、腰を少し伸ばしてほしいと高めである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席・ソファ席・廊下には長いすもあり、自由に一人になれたり、気の合う方同士で会話を楽しまれたり出来る様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家族との思い出の写真を飾ったりして本人や家族の希望に沿う様に配慮している。	使い慣れたタンスや衣装ケースを持ち込み、自作の塗り絵や、折り紙、思い出の写真を飾っている。好みの椅子を窓際に置くなど、自分流に並べ居心地よくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計は数多く設置し、トイレ表示は矢印やドアに張り紙をし、個室には表札を掲げ、自室であることを分かるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社東海ケア		
事業所名	グリーンホームかさほら II		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成27年9月11日	評価結果市町村受理日	平成27年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171900067-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引継ぎ、月1回全体会議において理念の唱和を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が作ってみえる野菜を頂いたり、草刈をしてくださったり、回覧板を持っていったりしている。台風の時など一人で怖いからとホームへ避難して来られる方も有りましたが、H27年2月に「災害発生時における福祉避難所」とし多治見市で協定しましたのでより一層地域の皆様に利用して頂きやすくなるかと思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回の傾聴ボランティアの方々との集い。見学したい方はいつでも来られるようにしている。不用になった衣類・タオル等を回覧板にして呼び掛け、持って来て頂いたり、取りに行ったりしている。不用になったビニールひも等を頂き、利用者のリハビリに使用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では地域の役員、市の福祉課包括センター、家族の方々の参加にて状況報告・要望・意見交換をしサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課、包括センターの方も運営推進会議に参加して頂き、実情・情報提供を交えて積極的に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受け、全体会議時に研修報告の元、勉強会を行っている。それでも車椅子で過される方等は自力が無く、滑り落ちられる為、T字ベリとの使用、又ベッド柵の固定する事を家族に話し同意書に署名捺印を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受け、ミーティング時全員で話し合う。アザ等のある時はいつ・どの様にして出来たかを追求する(勉強会)。行動・思いをすばやく察知し日々忍耐強く心のケアを行っている。職員同士が見過ごさない様、常に注意をし防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のフォーラム等に参加し学ぶ機会を持っている。現在、後見制度を使ってみえる利用者さんも有り、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学・契約に関する家族の不安・疑問点などの聴き取りを十分に説明し、話し合っ理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画を立てる時、ケアマネ・家族・担当職員等で意見・要望を話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全職員出席にてミーティングに参加、意見交換をしている。また、その時々においても提案・意見を言える様に努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は各自の条件が重視されている。個々の努力や実績、やりがい、向上心を持って働けるように給与水準の見直し等も考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に積極的に各研修を受けたり、法人内外の研修を受けることは実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行いたい、出来ていないのが現状です。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手の立場に立って心情を理解し心から笑顔で接し、心の寄り添えるケアをひながら信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと要望等に耳を傾けることはもちろん、家族の協力を得ながら安心して生活の出来る様に信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族にはホームに来て頂いたり、手紙や電話等で状況を共有し、一方通行にならないように協力を求める事により信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に出来る仕事、洗濯物を干す、畳む、草取り等を職員と共に行って関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙であったり、電話であったり又は訪問時にはお茶を飲みながら時間の許す限り会話をし(本人・家族・職員)コミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人と食事に行ったり喫茶店に行かれる方があり支援している。ドライブの時は本人の生み慣れた場所を選んでその場所に立ち寄る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方は孤立にならない様に間に入り説明し皆と話し合っ作業が出来る様に支援している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方もデイサービスを利用されておりケアマネ、家族との情報交換・相談の支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の希望を常に伺い言葉や表情から何を要望されているかを把握し希望に添える様に努力している。家族への電話であったり外出先の希望等意向に出来る様に努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出張マッサージを継続されている方もあり努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を把握し、強要することなく自由に過せる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を理解し本人、家族、ケアマネ、担当職員で意見交換し、よく話し合って要望を反映させ、より良い介護計画を作成出来る様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報に記録し、職員間で朝・夕の申し送りや情報を共有し介護実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診・通院・本人の希望による出張マッサージの継続・条件付えの看取りを取り組んでいる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から得た情報により公共施設を利用している。福祉祭などに作品を出したり、見学したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療を受け、緊急時にはいつでも指示を受け動ける様にしている。希望の医院のある方は、家族と共に受診されている方もあり、その方に応じた対応が出来る様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で小さな変化など気づきを職員間で情報を共有して適切な処置が出来る様にしている。また、主治医に連絡を入れその都度指示を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は毎日洗濯物を取りに行ったり、見舞ったりし、家族と連絡を取り合い病院との情報交換に努め、早期退院出来る様に話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と話し合い、理解を得ている。看取りも2名有り今後も家族との話し合いで、条件付ではありますが支援に取り組んで参ります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が定期的に消防訓練・救急救命講習を受講し実践出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練を行い地域と協定書を作成し協力を得、又地域の方の一時的避難所としても利用出来る様にしている。多治見市福祉避難所ともなっている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に気をつけ心がけてはいるものの、時には反省する様なことも有り、職員間で話し合いながら気をつけて対応するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の体操・レクリエーション・入浴等、自己決定で本人の意思に副って行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時ゆっくりしたい方、早く就寝したい方、テレビを観たい方、ぬり絵をしたい方等それぞれの希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決める事が出来る方は好きな服装でアクサアリー等自分で選ばれている。自分で決められない方は職員が季節に合った服装を用意する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材・彩り等を考え、好みも取り入れた献立をしている。利用者さんにはテーブルを拭き、食材によってはスジを取って頂いたり食事の後片付け等出来ることを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食材を食べやすく調理したり、量を考慮している。また水分量は声掛して摂取を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の体操に嚥下体操も取り組み一人ひとりの口腔ケア介助を行っている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、それぞれに合った声掛けでパットの使用量を減らしたり、自主性を伸ばしている。夜間も巡回し安眠を妨げない様にトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫はもちろん、水分補給、牛乳、運動等を行っているが、どうしても薬を必要とされる方には、主治医に相談の上、その方に合う薬を服用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日・入りたくない時等本人の希望・タイミングに合わせて入浴支援をしている。入浴剤を入れて温泉気分を楽しんで頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明をつけたまま眠る人、照明をつけ眠るまで本を読んだりする人、塗り絵をしたりしている人、ラジオを聴きながら眠る人、それぞれの意思に尊重して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬を理解し症状・服薬の変化等は申し送りノートに書き、全職員が把握し誤服用のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には個々の担当者と外出し外食を楽しんだり、ケーキで祝ったり、プレゼントがあったりと喜んで頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・紅葉と四季折々に景色などを見に出掛け、また地域の催し物にも出掛けられるように支援している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少ない金額を自分で管理してみえる方も有るが、殆どの方が家族の管理の元に有り、必要に応じて家族の方と話し合い協力をして頂き使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に希望とおりにいつでも電話ができる様支援している。年賀状は皆さんに書いて頂き送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物や作品を作り、掲示・展示している。広い広間では自由に過ぎて頂いており、時には他のユニットへ遊びに出掛けたりされることもある。光や温度は常に皆さんの体調に合わせ、心地よく過ぎて頂ける様努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席・ソファ席・廊下には長いすもあり、自由に一人になれたり、気の合う方同士で会話を楽しまれたり出来る様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家族との思い出の写真を飾ったりして本人や家族の希望に沿う様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計は数多く設置し、トイレ表示は矢印やドアに張り紙をし、個室には表札を掲げ、個室であることを分かるように工夫している。		